<table>
<tr><td colspan="6">会　　議　　録</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和元年度第３回
生活支援事業協議体</td><td>日
時</td><td>令和２年１月２８日（火）
14時00分～16時10分</td><td>場
所</td><td>前原暫定集会施設
Ｂ会議室</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="5">小金井市福祉保健部介護福祉課</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出
席
者</td><td>委　員</td><td colspan="4">小早川委員（社会福祉協議会）
阿久津委員（社会福祉協議会）
山根委員（介護事業連絡会）
尾崎委員（民生委員児童委員協議会）
井上委員（ボランティア団体代表）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="4">第２層コーディネーター
　中川氏（小金井きた地域包括支援センター）
　金子氏（小金井ひがし地域包括支援センター）
　馬場氏（小金井みなみ地域包括支援センター）
　雨宮氏（小金井にし地域包括支援センター）
濱松氏、菊地原氏（介護福祉課）</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴の可否</td><td colspan="2">◎可　・　一部不可　・　不可</td><td>傍聴者数</td><td>１名</td></tr>
<tr><td colspan="3">傍聴不可・一部不可の場合の理由</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

次　　第

１　開会

２　議題

（１）報告事項

①　前回協議体からの進捗等

②　「シニアのための地域とつながる応援ブック」配布状況

③　９～１２月分生活支援連絡会報告

④　令和元年度お元気サミットｉｎ小金井

⑤　今年度活動進捗報告（ひがし・きた）

⑥　各圏域の小地域ケア会議について

（２）検討事項

・目指す地域像について

・「地域のつながりがりって」（グループワーク）

３　その他

次回協議体の開催予定

４　閉会

１　開会

（濱松包括支援係長）
高良委員長体調不良のため欠席。
進行は事務局で行うことで承認された。
清水委員の民生児童委員定年にともない、尾崎委員が推薦され着任した。

（濱松包括支援係長）
係長挨拶。
資料の確認。

２　議題
（１）報告事項
①　前回協議体からの進捗等
②　「シニアのための地域とつながる応援ブック」配布状況
④　令和元年度お元気サミットｉｎ小金井

（濱松包括支援係長）
「前回協議体からの進捗等」について報告。
資料１－２の「担い手一覧」を作成した。（担い手一覧参照）
ちょこボラ会議は考え方の違いから現在休止中。
社会福祉協議会の第３次小金井市地域福祉活動計画であげられた「日常生活サポーター」について生活支援コーディネーターと地域福祉コーディネーター双方が協力して行っていくこととした。
「応援ブック」について報告された。（配布一覧参照）
「お元気サミット」
住民参加型でできるものとして、ひがし地域で行っているうたごえサロンと近隣助け合い体験ゲームを実施予定をしている。ゲームを通して参加された方に地域の問題はどういうものかとか、実際助けるところはどういったところかをシミュレーションし、実際互助の気持ちの醸成などにつなげたい。

（菊地原介護福祉課職員）近隣助け合い体験ゲームについて簡単に説明。
（金子氏）
ゲームを通して、お互いに困っていることとできることを知るきっかけになり関係性を築きやすいゲームだと思う。

（濱松包括支援係長）
今年度も各圏域での活動やどのような居場所があるかなど、圏域ごとに掲示物を作成して展示を行う予定。
参加者がどのような地域を望むかという部分を付箋なり何なりで貼りつけて参加できるようなスペースも現在の展示のスペースに設けるように検討している。

③　９～１２月分生活支援連絡会報告

⑤　今年度活動進捗報告（ひがし・きた）
（金子氏）
地域課題分析・評価シートについて説明された。
具体的な手段として、応援ブック、ひがし包括発行の社会資源の情報紙を発行し配布及び活用を行い、平成３１年４月～１２月まで１，５８０部ほど配布した。
活動支援に関しては、これまでの継続活動として商店会回り、地域のサロン訪問、地域の保育園、園児と一緒に地域の高齢者の方々と多世代交流として一緒にさくら体操を行う企画も実施した。また今年度は商店会のイベントに各月ほどの頻度でお手伝いで関わりを持っている。移動販売の活動についても、活動の定着を目指し掲示板の活用など周知活動も行っている。
新規の居場所づくりでは坂下地域での立ち上げを目指している。男性が集える場、男性の料理教室などのコンセプトなどに賛同いただいた地域の住民と立ち上げの相談を行っている。
活動グループごとの交流の機会として、小地域ケア会議を東町エリアと中町・本町１丁目エリアと二分し行った。小地域ケア会議の横のつながりの企画は好評で、今後も気兼ねなく地域の方々がお話のできる場として会を継続できたらと考えている。
そのほかの活動は、大型マンションの自治会からふれあい祭りでの講演の依頼、当施設の園庭で毎週開催しているつきみの青空さくら体操のランチ会はもっと気軽に参加できる場にしたいと声が上がり、今年の９月からはお茶会に変更して月に１回体操の始まる前の１時間皆さんでおしゃべりを楽しみ、その後さくら体操に移行する形に変更した。
そのほかボッチャの輪つくろう会小金井支部の活動もさかんで、さくら体操の会場で開催したり、単独のイベントとしてボッチャの普及活動に取り組んでいる。高齢者の方に関しては介護予防効果、多世代交流も図れる活動として今後も活動支援が行えればと思っている。
そのほかにこれまで数年カフェの居場所として開催していた団体が月に１回ランチ会を始めた。

地域活動をされている皆さんから連絡を多く頂くようになった。今後も地域に出向いて多様な情報収集を行ったり、地域活動をされる方々と出会って顔見知りを増やしたい。

（濱松包括支援係長）

さくら体操は体操のレクリエーションでボッチャをやってみたらどうかということで管理会場でボッチャをやってみるという取組を行った。

体操で介護予防の取組をしている一方でレクリエーションとか居場所の観点でボッチャをやりたい方と初めて参加される方が取り組んで楽しかったというのがマッチするのは生活支援体制整備事業の視点でも非常にいい取組だった。

（中川氏）

地域課題分析・評価シートについて説明された。

ちょこボラ会議を徐々に住民主体にさせることについては休止している。実際にちょこっとしたボランティアをやりたい人と仕組みをつくりたいと考えている人との考えの差があったことが大きな原因だった。ボランティアを実際にしたりＳＯＳを発信するには身近な関係、顔見知りの関係でないとなかなか難しいことがわかった。地域サロン等での周知、「きた通信」載せたが、反応はあまなかった。

活動団体のイベント等への協力として高齢者の男性の調理をするサークルから、いつものメンバーで調理をしているのではあまり進歩がないということで、ほかのメンバーとの調理・会食を実施する希望が出ている。

サロンを運営されていると徐々に参加される人数が減ってきてしまうという悩みがあった。参加人数が増やすにはどうしらたいいか検討したり、あとは「きた通信」などでサロンの情報を発信することで参加者を増やすような取組を行っている。

（濱松包括支援係長）

人数が減らないというか、継続的に活動していくコツみたいなものはあるか。

（井上委員）

やはり人から人にが一番いいのではないかなと思う。あと一応開催している側、ボランティア側としては一人一人に目を配るという、ちょっと変だなということを気づきたい。

⑥　各圏域の小地域ケア会議について

（濱松包括支援係長）

地域ケア会議について説明。

各圏域で行われた小地域ケア会議について説明され、そのご各圏域ごとに説明をされた。

みなみ包括の内容は「担い手って何　いつまでも住みなれた小金井で」
テーマに沿ってグループワークを実施。今回は今までに比べて多様な方が参加され、地域住民同士のさらなるつながりを持つという機会になった。
ひがし包括の内容は、参加した感じとしては横のつながりに主眼を置かれていた。事前のアンケートに基づいたグループワークを実施され、圏域を２つに分けて、さらに細かく２回に分けて小地域ケア会議を実施した。お互いがどのような資源が地域にあるのかを知るいい機会になり、地域ごとの課題の抽出も図ることができた。
にし地域の内容は今年の個別地域ケア会議の中で検討された事例も参考とされながら、元気な高齢者の就労支援と居場所作りについて、グループ分けされて障害特性の理解と支援方法について検討した。高齢者の就労支援という課題に対して参加者で検討できた点では非常に良かった。
きた包括は、防災というテーマで２月に入ってから会議を開催する予定と聞いている。

（２）検討事項
・目指す地域像について

（菊地原介護福祉課職員）
前回のグループワークのまとめのあと、目指す地域像の提示し、検討した。
またどこで、だれに対して使われるのかについては、住民に対して使うものでありこの事業を通して誰もが共通してものを見るためとの説明がされた。
「生きがいをもてる地域づくりを目指して～住民主体によるお互いさまの社会をつくろう～」
「お互いさまからつながる地域づくり～住民主体の生きがいのある小金井～」

「住民主体」という表現について討議がされた。
住民主体というとらえ方に委員の中でも相違があること、委員長も不在ということから目指す地域像については持ち越しとなった。

・「地域のつながりがりって」（グループワーク）

（菊地原介護福祉課職員）
グループワークについて説明。
「１、現状認識」地域のつながりが弱いと感じる場面はどんなとこか。

「２、原因分析」なぜつながりは大切だと思っているのにつながれていないのか。

「３、目指す姿」どのようなつながりが地域に増えたらいいのだろうか。

「４、目指す姿と現状のギャップ」現状ではしていないけれども、目指す姿だと自然にしていること。

「５、必要な取り組み」解決策は何か。

（グループワーク中）

（金子氏）

「地域のつながりが弱いと感じる場面」は防災、お祭りのイベント、自治会の加入率が下がってきていること。マンション、セキュリティーが特に高いところは孤立をしていて地域のつながりが弱いのではないか、仕事をしている現役世代は日中不在というところから地域とつながりが弱いという話になった。

「つながりが大切なのに何でつながっていないのか」原因として、つながらなくても生活ができてしまう、困っていない、働いている世代だと時間が持てない、ウイークデーのイベント開催、核家族など上がった。個人情報保護法によりお隣さんとつながりにくくなってきてしまっていること、知らない人には声をかけない、インターネットが普及で便利な時代的になり、会話をするきっかけがなくなった。

「実際目指す姿」はどうしていこうかというところは、顔の見える関係、挨拶のできる関係、回覧板もあったほうがいいのではないか。特に新しい御意見として、シニアデビューとしてペットの散歩がすごく有効。特に犬、ワンちゃんがとても飼われている状況があって、犬の散歩をきっかけに外に出る、ワンちゃんがいると、ワンちゃんのお散歩をしている同士は声を掛け合えるし、挨拶もできるし、それが１つのきっかけにもなるし、若い人たちを巻き込んでいくことも必要ではないか。あと子供たちも含めてコミュニケーション能力も上げていかなければ、多世代としては上がっていったほうがいいのではないか。

「できていないところ」は逆にどんなところということで、若い人たちを巻き込むことを目指すと多世代交流はあったほうがいいけれども、今はちょっと少ないのではないか、子供の居場所が少ない。

「必要な取組」としてはこきんちゃんの挨拶運動はとてもいいことなので続けていけたらいい。既存でもいいイベントを有効活用して、多世代も関われるような形にできたらいいのではないかというところで、たこ揚げ大会、おもちゃの病院も見直しができたらいいのではないか。市民祭りだとか桜祭りもうまく使えるのではないかという御意見もあった。商店会とコラボレーションだとか、子供がお店側になる取組も北口商店会でされているというお話があり、やってみても面白いのではないかという話

があった。

（雨宮氏）
「現状確認」隣人が分からないとか、声をかけられない、会うことがない、挨拶がないところが現状です。
「原因分析」核家族化、人間関係が面倒くさい、日中家にいないというこの辺の情報が出てる。
「目指す姿」は、顔の見える関係、気軽に挨拶できる、名前も分かったらいいという意見も出た。
「目指す姿と現状のギャップ」挨拶が自然にできる、困っているときに助け合える、お節介できるといいなという御意見が出ました。
「取組」やはり子供を巻き込んで多世代で交流できたりするといいという御意見が出まして、趣味のあるイベントがいっぱいあって、興味のあるものに参加できるといろいろみんな多世代で交流できていいのではないか。
（濱松包括支援係長）
全体を通しての集約みたいなところはまた改めて事務局で作りまして、次回の協議体で簡単な整理をさせていただければと思います。

３　その他
次回協議体の開催予定

（濱松包括支援係長）
次回の開催の予定６月５日の金曜日、時間１４時から予定。

４　閉会